鐵輪 宮崎精鋼株式会社　名古屋市中川区丸米町一丁目1番地　☎052-361-2191　平成30年9月号

第59期定時株主総会

当社第59期（平成29年6月1日から平成30年5月31日まで）の定時株主総会は本社第3会議室において、去る8月30日午後4時より、新日鐵住金㈱殿、大同特殊鋼㈱殿、㈱メタルワン殿をはじめ株主13名（委任状を含む）が出席して開催されました。

まず、第59期の事業報告が議長である宮﨑薫社長からありました。当期は販売量189千トン（前期比2.5%増）、売上高287億円（同9.4%増）、経常利益12億1千3百万円（同6.8%増）、税引前当期純利益12億6千1百万円（同14.1%増）となりました。

平成29年度を顧みますと、海外では、米国の新政権の政策運営や欧州主要国の国政選挙、中東や北朝鮮情勢の緊張といった政策・地政学リスクにさらされながらも、景気の面では比較的安定した回復・拡大が続きました。わが国の経済も、東京都議会議員選挙や衆議院議員総選挙などを巡り政治が揺れ動く展開となりましたが、景気の面では、景気拡張期間が「いざなぎ景気」を超える戦後第2位に達するなど、年度を通して緩やかな拡大が続きました。

昨年度の国内新車販売台数（軽自動車を含む）は前年度比2.3%増の520万台となり2年連続で前年を上回りました。新車の無資格検査問題が逆風となりましたが、国内景気の回復を背景に新型車が好調でした。このような販売状況のなかで昨年度の自動車国内生産は前年度比3.4%増の968万台となり、こちらも2年連続の増加となりました。輸出は前年度比3.2%増加して479万台、海外生産は同2.2%増の1,978万台でした。

このような経済環境の下、本社では研磨機のオーバーホール、連続引抜機の制御盤の更新などを実施しました。知多工場においては、旧立体製品倉庫を取り壊しスラグの検査フロアー及び金型立体倉庫を新設する工事を開始しました。海外においては、米国で当社が出資しているNSCIが本年4月より営業生産を開始しました。また、ミヤザキセイコウ・デ・メヒコは昨年8月に生産を開始し、10月には開所式を執り行うことができました。

平成30年度は創業80周年を迎えるとともに、中期経営計画「CGF80」3年目の最終年度となります。今期の計画は、販売量約190千トン、売上高290億円、経常利益13億円です。なお、営業利益の目標は14億50百万円とし、売上高営業利益率は5%以上を目指します。設備投資は、前期からの継続案件であるスラグ関連の検査フロアーの新設および製品・金型立体自動倉庫などの物流整備や厚生施設の建て替え、設備の老朽更新などのほか、AIやIoTの工場活用投資を計画に盛り込んでいます。また、ミヤザキセイコウ・デ・メヒコは、今年秋にピーリングマシンを設置する予定です。

今年、日本の自動車メーカーの世界生産は微増が見込まれ、国内生産は逆に微減となる可能性がありましたが、現状ではそれが増加傾向となっています。当社にとって経営環境は恵まれており、今後も世界トップクラスの特殊鋼棒線の二次加工メーカーを目指し、お客様や社会の信頼に応えてゆく所存です。

なお、総会では、すべての議案（第1号議案：第59期計算書類承認の件、第2号議案：剰余金の処分の件、第3号議案：定款の一部変更の件、第4号議案：取締役9名選任の件、第5号議案：監査役2名選任の件、第6号議案：退任取締役に退職慰労金贈呈の件）につきご承認をいただきました。また、株主総会終了後に開催された取締役会において、宮﨑薫会長、宮﨑元伸社長、宮崎泰行副社長、犬伏邦夫副社長、加藤弘毅常務、萩原博常務が選任されました。

以上

MIYAZAKI

Pick upニュース（8～9月）　米Appleの時価総額が1兆ドル突破、米国企業初（8月2日）